

(様式2)

令和2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590200075		
法人名	長岡三古老人福祉会		
事業所名	グループホームまきやま		
所在地	新潟県長岡市榎山町1155-1		
自己評価作成日	令和2年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和2年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・建物の造りは雪国特有のせいがい造りとなっている。広い庭園があり、季節の花や鳥のさえずり、その風景からも季節が感じられる。中庭では、小さな畑で野菜作りも行っている。野菜の成長もリビングからみれるようになっている。
・リビングは開放感のある高い天井を採用し床には桐材を使い全体的に暖かい雰囲気を作っている。
・企業内には認可保育所のこどもげやき苑があり、苑児達の声が聞こえたり、散歩の途中で挨拶をかわしたり、気軽に交流でき苑児の成長を共に喜び合える環境がある。また、例年では月に1回苑児との茶話会があり、一緒にお茶を飲み会話、ふれあいを楽しみ普段みれない表情がみれたりあまり活動的でないご利用者が自発的に声を掛けられたりする場面もみられる。(今年度は、新型コロナ感染症対策にて交流はまだ行われていない。)
・庭や畑にでて季節の草花や作物にふれて楽しむことができる。(時には子供達と一緒に)
・一人ひとりの力が発揮できること → 家事や趣味を楽しむ場面を大事にしており、ご利用者同士や近所の方々と交流がしやすい環境作りに努めている。
・近隣に特養やショートステイ、デイサービス、パワーリハビリステーション、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、保育園、などの施設があり、行事を合同で行ったり(ご家族にも声を掛けさせていただいている)、医療の連携がとれている。リハビリ施設に歩いていける環境である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、同法人が運営している特別養護老人ホームや認知症高齢者グループホーム、保育所に隣接しており、行事や研修会を合同で行ったり、災害時に連携を図るなど、日頃から協力体制が整っている。
古民家風の本造平屋建ての建物は、吹き抜けの天井や桐材を使った床、中庭にある日本庭園など、落ち着いた雰囲気が感じられる。
地域住民や隣接する保育所の児童と交流を図ったり、調理や洗濯物干し、掃除など利用者一人ひとりが出来る事に取り組みながら、「普通の暮らし」を大切にしている。
現在は新型コロナウイルス感染予防のため、外部からの面会や外出、外泊を制限しているが、「利用者を共に支え合う」という考えのもと、毎月の便りのほかに電話やオンライン面会を行なうなど、家族や馴染みの人とのつながりが途切れないよう工夫しながら取り組んでいる。
管理者は、「利用者のその時その時の思いや気持ちを大切にしたい」と考えており、職員も利用者に寄り添いながら日々のケアに取り組んでいる。
今後は、認知症カフェなどを通じて、地域に向けて認知症への理解や地域における事業所の役割などを発信していきたいと考えている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念はいつでも確認できるように玄関とスタッフルームに掲示しており、職員が常に意識して実践できるようにしている。月1回の部署会議にも毎回周知するようにしている。理念に沿った職員個々の目標を立て、実践できるようにしている。	事業所の理念を基に、職員一人ひとりが個人目標を立て、理念の実践に向け取り組んでいる。理念や個人目標を玄関やスタッフルームに掲示して全員で共有を図るほか、毎月の部署会議で理念の確認を行ない、半年毎に個人目標の達成状況の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本来であれば、隔週に1回近所の方がハーモニカを演奏に定期的に来所してくださっている。母体の施設とのお祭りで露店を出し近所の方がたくさん来て下さる中で、ご利用者にみ店員として活躍して頂いている。防災で協力して頂いたり、地域の行事にも参加している。現在、新型コロナウイルス感染症対策にて実践できていない。	現在はコロナ禍で控えているが、例年、地域住民が草取りや踊りなどのボランティアに訪れたり、地域行事や近くの小学校の運動会に利用者と一緒に参加するなど、交流を図っている。事業所では、今後、認知症カフェを行なうなど、認知症への理解に向けて地域に発信していきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、草取りなどの地域の方のボランティア様、小、中学校のボランティア様、実習生の受け入れを行っている。同敷地内にある保育所の苑児との行事も行っている。地域行事への参加や、スーパーや他お店での買い物にもご利用者と一緒に行き、生活の場面を見て頂くことで理解していただく機会を作っている現在、新型コロナウイルス感染症対策にて実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域の方、ご家族、ご利用者へ出席して頂きグループホームでの生活の様子や活動状況など報告し意見を頂き、ご家族の質問や疑問なども聞かれるが意見を参考にさせて頂いている。新型コロナウイルス感染症対策にて、令和2年3月より書面での報告と、照会書にて意見を頂いている。	会議には利用者、家族にも参加してもらい、隣接する同一法人の特別養護老人ホームに併設するグループホームと合同で開催している。利用者の生活の様子や活動報告のほか、事故報告を行い、意見交換を行っている。出席者から、事業所の取り組みについての助言や地域包括支援センターから感染症の指導を行ってもらうなどサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長岡市の訪問相談員はR元年度は3か月に1回、訪問していた。相談員よりご利用者の話を聞いてもらったり、生活の風景を見て頂いている。令和元年度は市で開催している管理者研修、包括支援センター主催の多職種交流会などに参加させて頂いていた。今年度においては、新型コロナウイルス感染症対策により現状では開催が予定されていない。	市が主催する研修会や交流会に参加したり、困難ケースや制度利用について相談するなど協力関係を築いている。また、定期的に市の訪問相談員が来訪し、利用者から伺った内容を相談記録に記載して職員と共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で身体拘束について学習したり、法人全体の取り組みとして身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。グループホームでは日中、玄関を開錠している。ご利用者が外出のご意向がある時は職員も一緒に付き添わせて頂いている。外に出る機会も設けている。	法人研修に参加したり、事業所内においても年間計画を立てて研修に取り組んでいる。以前、利用者の安全を考え一時的に玄関を施錠した際には、職員間で話し合いを繰り返しながら開錠に向け取り組んだ。利用者の生活が閉塞的にならないように外に出る機会を作ったり、その時々を利用者の気持ちを尊重しながら、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部講師に依頼しながら、管轄全体で年に2回の施設内研修にて勉強会を行っている。(今年度の開催日は未定。)ケアマネジメント委員会にて虐待防止のマニュアルの作成を行っており、事務所に置いていつでも見れるようになっている。	内部研修会を行ったり、マニュアルを作成し職員間で共有するなど、虐待防止に努めている。管理者は、日々のケアを通じて気づいた不適切ケアについて、その都度、職員に声をかけて注意を促したり、個々に話を聴く機会を持ち、虐待や不適切ケアが見過ごされないよう気を配っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在は利用されている方はいない。今後も勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前後の段階で家族に契約内容についてなどの理解、納得して頂く為に十分な説明を行っている。面会時などにその都度、ご家族からの質問など受け返答している。ご利用者の状況も説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご利用者、ご家族の意見要望をお聞きし、対応できることはさせて頂いている。意見箱の設置もしているが、今年度これまでの投書はない。	利用者との会話を通じて意向を聴いたり、家族への電話や面会の際に話を聴くよう努めている。年に1回、家族アンケートを実施して結果を職員間で共有し、家族にも報告している。居室の掃除やペットメイキングのポイント、食事形態や盛り付けなど、頂いた意見や要望を職員間で話し合い、改善に向け取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り(ミーティング)を活用したり部署会議の中でご利用者との関わりをはじめ、業務や環境面についてなど意見を聞き検討している。それらの提案したものが実施できるよう、継続できるように努力している。	職員から出た意見は、管理者が経営会議に上げ、更に地区(エリア)の部会長が法人の会議に上げていく仕組みとなっている。管理者は、部署会議の際、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員からの提案で、利用者の特技を活かし、デイキャンプの際に使えるようにと籠(かまど)づくりに取り組んだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員のストレスを軽減する為の工夫や環境作りを心掛けている。今年も職員全員のストレスチェックが行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を始め、法人内で定期的に研修会や法人内のグループホーム部会で学習会を実施している。職員の経験年数に応じた研修も行っている。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策により事例研究の取り組み、発表方法を変更して行う予定。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内においてグループホーム部会を月に1回開催し、各事業所の現状報告や意見交換、勉強会を通じ、質の向上へと繋げている。令和元年度は長岡市主催の研修会にも参加している。今年度は、新型コロナウイルス感染症への配慮により現状においての研修会は予定されていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問で生活の状態を把握するようにご家族に話を伺ったり、本人とお話したり、サービス事業所から情報を頂いている。センター方式のシートを使用し、それに家族から記入していただき、職員が理解することで、今までの生活と、これからの生活が継続していけるように、そして今どう思うか、あるいは聞き安心して生活ができるように支援している。入居間もない時期も不安を取り除けるように声掛けを多くし、どうされたいのかお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みされた時は、施設見学して頂き、雰囲気、環境を見て頂きどのような生活になるのかお話をさせて頂いている。そして、ご家族の思いや困っていることなどお聞きし職員と家族と一緒にご利用者の生活を支援していくこととお話し理解して頂いている。お互い話しやすい関係作りにも心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援があれば在宅のケアマネジャーに話を聞いたり、法人内の各種サービスに繋げるなどの対応をしている。(パワリハの利用やホームヘルパーの利用など)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者のできること、できないことを見極め、そしてご利用者から教えて頂く事も多くあり、お互いに支え合って一緒に生活をしていることを意識している。一緒に家事に参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本来、面会に来られた際など、最近の様子を伝え現在の状態が家族にもわかるようにお伝えするようにしている。定期受診の付き添いや行事、日頃行っている活動についても声かけ、参加の協力をお願いしている。その他自宅などの外出の声掛けもさせて頂いている。現状において新型コロナ感染症対策のため、面会の制限を継続している状況。受診の相談や日々のご様子の報告と相談を電話連絡にて行っている。	例年、家族から病院受診や外出の付き添い、行事への参加等に協力してもらっている。入居の際には、居室づくりを一緒に行ってもらったり、いつでも来ていただくよう伝え、面会の際にはお茶を提供しゆっくり過ごせるよう配慮している。現在は、コロナ禍の為、事前に予約してもらい玄関スペースにて面会を行っているが、毎月のお便りや電話で様子を伝えたり、オンライン面会を取り入れる等、関係が途切れないよう工夫し取り組んでいる。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族へ、外出、外泊の協力を出来る範囲でお願いしている。家族は勿論、知人、近所の方、親戚が自由に入出入りできる環境作りをして本人の馴染みの関係の継続を行っている。現状では、新型コロナ感染症対策にて面会制限や外出を控えて頂いている状況。ご利用者の家族へ逢えないことによる不安と、ご家族も様子を心配されておられる。ご家族への電話連絡時は、なるべくご利用者の方にも電話に出ていただくようにしている。日々の生活の様子を広報誌風にまとめ、ご家族へ毎月郵送している。ラインを活用したオンライン面会もご家族へ案内している。	入居の際に家族から、センター方式アセスメントシートに家族図や今までの暮らしについて記入してもらったり、利用者との会話を通じ、馴染みの人や場の把握に努めている。地域のお祭りやマラソン大会に参加したり、馴染みの歯科から往診に来てもらう等、関係が途切れないよう支援を行っている。現在は、面会や外出を控えてもらっているが、車で自宅付近まで出かけたり、電話をかける等、今までの馴染みの関係が途切れないよう工夫し取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の方それぞれが役割を持ち、ご利用者同士と一緒に気持ちよく生活して頂けるように、職員が環境に配慮したりご利用者間の橋渡しをしている。状況により、活動、作業など一緒にに行い、楽しく、話しやすい環境作りに努めている。ご本人がご自分のペースで過ごしたいと思われている時は、距離を置きながらそっと見守らせて頂く事もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所された方に会いに行くこともある。契約終了後の利用者の家族が活動の材料を持ってきて下さっていた。他になにか頼みごとをお聞きしたり、遠慮なく来て頂ける雰囲気作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、職員にお話されることをお聞きしたり、言葉や表情などからどんな思いをお持ちなのか読み取る努力を継続している。(エマニチュードを取り入れながら)ご意向等、ご本人よりその都度お聞きするようになっている。新型コロナ感染症対策により面会制限が継続しているため、ご家族へ電話連絡時や受診時にご意向を確認している。	日常の何気ない会話や表情、行動などから利用者の思いや意向を読み取ったり、家族から情報を得ている。聴き取った情報は記録やセンター方式アセスメントシートに記載し、職員間で共有し、その人らしい暮らしとなるように努めている。外部講師を招いて、認知症ケアの方法のひとつである「エマニチュード」の研修を行ない実践に取り入れている。	日々の関わりで得た情報がアセスメントシートや介護記録に記載されているが、情報がまとまっていない。センター方式アセスメントシートを活用して新たに得た情報を追記し、6ヶ月毎の計画更新の際に情報を整理してシートの記載も更新するなど、情報の共有と活用に向けた更なる取り組みに期待したい。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問の時に家族に話を伺ったり、ご本人が生活されてきた部屋など見せて頂き、写真を撮るようにしている。担当ケアマネジャーより情報を得たりしている。	入居前に管理者が自宅を訪問し、暮らしの様子を確認している。また、家族や知人等から、今までの暮らしについて聞き取りを行ない、入居後もこれまでの趣味や活動が継続できるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回のミーティング時、ご利用者の様子を申し送り、ご様子の確認、記録に残すことで情報の共有、状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状では日頃より、ご利用者に関わる中でご意向の確認をしたり、ご家族には電話連絡時や来所時に相談をしている。日々の申し送りの中や、部署会議の中で挙げた課題、ニーズを検討しケアとして実践するよう意識している。	担当職員がアセスメントを行なって介護計画の原案を作成し、計画作成担当者を含めた部署会議にて話し合いを行ない介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎の計画の見直しの際には利用者、家族の意向の確認を行っている。	利用者や家族から、計画作成前に意向を聴いているが、計画作成時の話し合いへの参加は行われていない。利用者や家族が介護計画作成のチームの一員として一緒に話し合いに参加することで、利用者主体の介護計画が作成されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録、業務日誌に本人の言葉やエピソード、又は変化が見られたら記録を行い職員全員が確認し情報の共有に努めている。必要であれば、その都度ケア内容、ケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が定期受診に付き添えない場合、緊急時など事業所職員でなるべく対応できるようにしている。外出の希望があればその時の状況により、出かける場合もある。(現状は実施できていない)入浴もその日その時の状況に応じて行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでは地域のボランティアが定期的に来られており、楽しみのひとつとなっており、運営推進会議では意見を聞いたり、市から介護相談員の方に来て頂きアドバイスをもらっていた。新型コロナウイルス感染症対策により現状では有効に活用できていないが、新たな形を模索していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。受診時にご家族へのご様子の報告と、職員が記入した主治医連絡票、(日々の心身状態を記入したもの)を作成し、主治医に渡していただいている。必要に応じて職員も同行、直接報告し相談をすることもある。(電話で状態の報告を行うこともある。)	受診付き添いは家族にお願いしているが、緊急時や必要な場合には職員が同行している。事業所から医療機関へて主治医連絡票を作成し、利用者の状態や日々のバイタル値を伝えるなど情報共有を図っている。また、歯科医による往診や治療後の定期的なケアに歯科衛生士に来てもらうなど、口腔ケアにも力を入れて取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特別養護老人ホームの看護師に定期的に来て頂き、状態の報告と相談をしている。協力医療機関との連携もとれる体制が確保されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった時、病院には必要な情報を伝え、入院時の様子や退院の可能性、予後に関してケースワーカー又は看護師、ご家族と連絡をとり情報交換に努めている。入院時の状態確認の訪問も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入居後に重度化した場合や終末期のあり方について説明させて頂いている。そして状態変化に合わせて相談させて頂いている。法人内に多様なサービスがあり、ご本人にとってどこで過ごされるのが適切なのかその都度検討することとしている。ご家族が希望されればグループホームでの生活の継続を支援したいが、身体状態によっては危険な場合もあること、職員の不安もあるので、どこまで安全に支援できるのかを家族に伝え今後の対応について説明させて頂き、一緒に考えご本人にとって安心して生活できる支援を提供するように努めている。	事業所では看取りの対応は行っていない為、入居時に家族に対し、重度化の指針を基に重度化した場合や終末期の在り方について説明を行っている。入居後も、利用者の状態変化に応じて住み替えも含めた話し合いや、特別養護老人ホームへの入所申し込みのサポートを行うなど、利用者、家族の不安がないよう支援を行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で対応マニュアルをみながらシミュレーションしてみ、実際の場面を想定しどう動けばよいか、意見を出し合ってマニュアルの見直しをおこなってきた。急な体調変化の可能性があれば事前に受診をして頂くなどの対応をしている。特に夜間帯など、1ユニットであること、職員1名体制であり、急変時の対応が速やかに行える必要がある。そのため、救急時の対応の研修を事業所で行っている。また、定期的に緊急時の対応ができるようにマニュアルの確認を促している。	急変時の対応マニュアルを基に実際の現場を想定した研修会を行なって職員の実践力向上に努めている。事務所内に緊急時のフロー図を設置したり、マニュアルの見直しを行なうなど夜勤職員が一人でも慌てずに対応できるよう取り組んでいる。また、法人の朝礼時に事故報告を行っており、ケアマネジメント委員会で検討して再発予防に努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修で対応を学んだり、防災訓練を年2回行っている。近隣施設、地域住民の方の協力も得ている。R1、10月13日には河川の増水、避難準備発令にて他部署協力のもと、隣接の特養最上階へ避難を行った。水害想定訓練も行っていたが、今回の実践も含め再度マニュアルの検討をしていきたい。災害時は敷地内の特養が避難場所となっている。災害時に備えて3日分の備蓄を用意している。	隣接している法人施設と協力し、防災訓練に取り組んでいる。水害に備えた訓練やマニュアルの見直しも行っており、災害時には近所の人が駆けつけてくれる体制ができています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者と職員が馴染みの関係から、馴れ合いの関係にならないように言葉使いやかかわりについて丁寧に行うように注意している。プライバシーについても施設内研修を行っている。	居室は利用者にとっての生活の場と考え、入室の際は声をかけてから入るようにしている。日頃から、なれ合いの関係にならないよう、利用者を名字で呼んだり、言葉づかいに気を付けて対応している。また、トイレや浴室のリネン類が見えないようカーテンを付けるなど工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気持ちを大切に、なるべくご本人にそれでお聞きしながら関わらせて頂く努力をしている。(衣服の決定や食事についてや外出のお誘いなど)ご自分から意見を上手く言えない場合でも、答えやすい質問の方法で伺っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のその時の状況を見ながら、食事や家事のお手伝いのお誘い、活動参加の声掛けはさせて頂くものの、無理強いしないようにしている。その方に合ったペースも考え声を掛けさせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族の希望をお聞きして対応している。服など不足していれば家族にお願いしている。理美容に関しては現在は敷地内の床屋に行かれたり地域の美容院に行かれる方がほとんどである。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事作り、準備、盛り付け、片付けは必ずご利用者と一緒に行っている。食事に興味を抱いてもらったり、自分達で作ることの楽しみを感じたり、会話のやりとりを楽しんで行って頂いている。それぞれの方が得意分野を持っておられそれを活かしてお手伝いをして頂いている。	料理の下ごしらえから味付け、盛り付け、片付けまでを食事として考え、利用者一人ひとりの出来る事を活かしながら一緒に取り組んでいる。毎週日曜日は近所の魚屋で魚を買い、調理方法を教えてもらうなど、お店との馴染みの付き合いも続けている。2020年6月から、利用者に関わる時間を増やそうと、朝夕の食材を業者に配達してもらうなど業務を見直しにも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人に合った食事形態、量で提供するようにし、食事量、水分量のチェックを行っている。その方に合った食事内容か確認、把握も行っている。献立は管理栄養士からアドバイスをもらっている。嗜好ではないメニューであった場合は違うものをお出しすることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声掛け、必要な方には付き添って手伝わせていただいている。口腔内の状態確認も適宜行っている。夕食後は声掛けし義歯をお預かりし、洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所をわかりやすく表示している。トイレの声掛けが必要な方は、排泄表を見ながら(間隔を見ながら)誘導させていただき、失敗少なく気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。	日頃から、さり気なく声かけを行ないながら利用者の排泄パターンやサインの把握に努め、トイレでの排泄が行えるよう支援している。利用者が一人でパット交換が行えるよう、汚物入れをわかりやすく表示するなど自立に向けて工夫している。トイレ内のオムツ類が見えないようカーテンをするなどプライバシーへの配慮もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中、なるべく体を動かしていただけるよう働きかけたり、食材には野菜を多く取り入れ、乳製品も様々な形で毎日摂取されるようにしている。それでも排便コントロールの必要な方は本人、家族、主治医と相談し必要量の下剤を併用していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ち良く入浴して頂けるよう好みの時間帯や、体調や気分に合わせて無理なく入浴されるよう配慮している。ゆっくりとご自分のペースで入られるよう雰囲気作りも心掛けている。皮膚の清潔保持に配慮を要する方もおられ、ご家族からの意向もあり入浴回数を増やしている。	1日に3人位ずつ、午後の時間帯で入浴してもらっている。基本的にはおひとり週2回の入浴としているが、その日に入りたいという希望があれば対応したり、拒否が強い時は翌日に入浴してもらうなど、利用者一人ひとりの気持ちを汲みながら支援している。入浴前に着替えの準備を行なうところから、利用者のペースに合わせた支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、夜はゆっくりと休めるという生活のリズムを調えられるよう働きかけている。室温、照明にも気を遣っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容が記された説明用紙をファイルに綴じて確認できるようにしている。配薬時は配薬チェック表を確認しながら、取り出す時、名前、本人かどうか、薬の袋と合っているかなど確認し内服して頂いている。その時々々の症状、残薬などを主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者お一人ひとりの得意分野を活かせるように、お願いする作業内容やタイミングを変えている。その方の希望する楽しみ、歌だったり、ボール遊びなどで体を動かすことや、裁縫だったり、散歩などその日によって活動内容か変え楽しんで頂く努力をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「庭に出たい」「玄関まで出たい」「散歩がしたい」等の希望があれば、その状況を見てなるべく実現できるようにしている。現状においては新型コロナウイルス感染症対策のため、配慮を行いながら外に出る機会を大切にしている。	近くのスーパーに買い物に出かけたり、行事の時に作ったおやつを近所の家に届けるなど、普段から外出の機会を設けている。現在はコロナ禍の為、大勢の中に出かける事は避けているが、少人数で車で出かけたり、近所を散歩したり、中庭に出たりするなど、できるだけ外に出る機会を持つよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材等の買い物に行かれた時にご利用者から品物を選んで頂いている。(現状は行ってない)自分でお金を持っていたいという方は自己責任ではあるが、持って頂いている。買い物に行った時はご自分で欲しいものがあつたら金額にもよるが購入できるよう家族より了承を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を使って頂いている。ご家族からの電話連絡なども取りついでいる。現状において、新型コロナウイルス感染症対策により面会制限の実施、ご家族に逢える機会がないため電話にて話をさせていただく機会をお作りしている。ご本人宛の手紙が届いたら、ご本人にお渡ししている。必要であれば内容を伝えさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内は廊下、玄関、トイレ、台所、リビング等々、清潔感を保つように掃除を行っている。明かりは暖かみのあるものを使用している。テレビの見やすい位置を検討したり、ソファでくつろげるよう、位置を考えたり、危ない配置にならないよう配慮している。庭で花や野菜を育て季節感を出したりと工夫している。	日中は利用者のほとんどがリビングで過ごしていることが多いが、庭の草木や花を眺めたり、室内の飾りつけを変えるなど、季節の変化を感じてもらおう工夫している。また、利用者の意見を聴きながら、テーブルや椅子の配置、テレビの向きなどを変えながら、寛げる空間づくりを心掛けている。現在は、玄関スペースをカーテンで仕切り、イスを置いてアクリル板を設置するなど感染対策を図りながら面会場所として活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にソファ、リビングにもソファ、トイレ前に籐の椅子を置いたり、思い思いに過ごせるように家具の配置を行っている。ご利用者同士が話せる食堂のテーブルや椅子の位置だったり、ご自分の気分で気楽にテレビが見れる様に配置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人、家族と相談して居室にご本人の馴染みのものを持ちこんで頂いたり、環境作りの協力をしていただいている。カレンダー、時計は必ず持ってきていただいている。ご家族アンケートにて、居室洗面台やベッド枕元の清潔面のご意見があり、再度清潔保持を徹底している。	居室内の家具の配置は、利用者、家族と相談し決めている。家族の写真や思い出の品を飾るなど、利用者が落ち着いて過ごせるよう工夫している。事業所でベットを備え付けているが、利用者の生活様式に合わせて布団での対応も行っている。居室内の清掃は毎朝職員が行い、清潔に過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の部屋がわかるように表札をかけている。トイレの場所もわかりやすいように扉に表示させて頂いている。洗濯物は見える位置に置くことで乾いているかご利用者自身が確認できる。食事のメニューはご利用者に記入して頂き内容を確認して頂いている。危険なものが置いてある倉庫は鍵を掛けさせて頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				